

令和 7 年 1 月 22 日

世田谷区立経堂小学校  
青鹿 和裕 校長 様

世田谷区立経堂小学校  
学校関係者評価委員長 高橋和人

## 令和 6 年度学校関係者評価について

令和 6 年度の学校関係者評価を評価委員が協議の上とりまとめましたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 評価にあたって

今年度は年度当初から新型コロナウイルス感染症による学校活動への制限がほぼ消え、子どもにとってはのびのびと学べる環境が、保護や地域にとっても公開授業や連携活動などを通して学校をより身近に感じられる環境が元に戻ってきた。

さらに、アンケート調査における保護者の回収率は昨年度の 54.5%から今年度は 86.7%へと大きくアップし、学校の自己評価や学校関係者評価の評価素材としても好影響があったと考えられる。保護者や地域のご協力とともに学校の回収努力に感謝したい。

アンケート調査の結果はおおむね引き続き良好であり、安定した学校運営が継続されていることが伺われた。アンケート調査の他にも、学校行事への保護者アンケート、学校長との対話、教職員ヒアリングや学校行事の参観等から評価委員が学校の教育活動の実状の把握に努め、学校の自己評価を対象として学校関係者評価を行ったところである。

評価に関しては、学校経営方針、学校の自己評価、学校関係者評価が同軸でつながりを持って学校経営の PDCA サイクルに資するよう重点目標を単位として行ったところである。

#### 2 学校経営方針の重点目標「課題を解決する力の育成」「自他を大切にすると共に、自己肯定感の育成」「創造する力の育成」ごとの評価

令和 6 年度は経堂小学校の教育目標「よく考える子 助け合う子 健康な子」の実現を目指して、3つの重点目標（「課題を解決する力の育成」「自他を大切にすると共に、自己肯定感の育成」「創造する力の育成」）と、その重点目標を達成するために6つの基本方針（1 キャリア・未来デザイン教育の実現、2 教育の DX の推進 3 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進 4 地域社会と協働した教育の推進 5 健やかな体づくり 6 学校における働き方改革の推進）が設定され学校運営が行われてきた。昨年度と比べ、重点目標と基本方針の関係整理や内容の微調整など時勢の変化等も踏まえての変更が行われたが、経堂小学校が継続的に培ってきた子ども像「自分を自分で育てる子ども」「自分を役立てようとする子ども」のキャッチフレーズは変わりなく、さらに「自分

づくり」として示され、学校運営の目標が明確化されたところである。

学校長の経営方針のもとで教職員とこれらの重点目標及び基本ビジョン等がしっかり共有され、学校運営が行われている。学年ごと学期ごとに、重点目標や基本方針等への取組状況が進行管理されており、学校全体で組織的かつ一体的に目標達成に向かっていくことは高く評価できる。

教育目標、重点目標、キャッチフレーズ、重点目標を達成するための基本方針を、教職員はもとより児童及び保護者や地域とも、さらに共有を深めながら、安定した学校運営が進められることを望む。

以下、重点目標ごとの学校の自己評価に対しての見解と次年度に向けて期待する事項を列記する。

### (1) 課題を解決する力の育成

- 世田谷区、東京都、全国の学力調査等から、情報収集能力や振り返りによる学習の定着、ICTの効果的活用など、経堂小学校児童の課題解決力を測る項目が東京都や全国の平均に比べ高位置にある状況がみられ、「探究的な学び」の充実を目指した教職員の日常的な授業改善の実践や教育指導の成果と考えられ高く評価できる。
- 公開授業や教職員ヒアリングを通じて、教職員が日々の授業の中で、低学年の時期からめあてを立てること及び振り返りを行うことを定着させるとともに、問題解決的な学習や学び合いを重視した取組に組織的に尽力されている状況が理解でき、学校の自己評価にもある通り、探究的な学びの実践がさらに進化することを期待したい。
- 児童アンケート調査によると、「先生は課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」は肯定的回答が90.1%、一方で児童自身が「めあてを立てたり計画を立てたりして学習している」の肯定的回答が73.4%（昨年比5.2p減）、「授業中に情報を集めたり整理したりして、自分の考えをまとめている。」の肯定的回答が77.5%（昨年比7.4p減）と先生は環境を整えているが、実現できていないと感じる児童が存在することもわかる。児童の肯定的評価の微減に留意するとともに、引き続きの細やかな指導の実践や個人への目配りを継続していくことが必要と考える。
- 教育のDX推進、特に学校におけるICT活用に関して、児童の活用状況が全国に比しても極めて高い状況にある。児童アンケート調査や保護者アンケート調査において授業における先生の活用についても肯定的回答は高水準である。授業以外においても運動会の演技練習、保健指導の動画化など様々な場面での活用が進んできており、ICT活用は着実に定着してきている状況が伺われる。学校の自己評価の考察にもあるが、児童の調べ学習や学び合いの場面で効用が発揮されるものであり探究的な学びの実践にも有用である。今後の活用にも大いに期待したい。

#### 《次年度に向けて》

- 「探究的な学び」の充実を目指して、校内研修や情報共有などにより教職員の授業力を高め

授業改善を進めるとともに、算数科以外の教科での実践を通じてさらに効果が上がることを望む。また、「探究的な学び」の意義を保護者や地域とも共有しながら広く情報発信し、世田谷区内や東京都における先進事例として指導方法が確立していくことも期待したい。

- 児童及び教職員の ICT 活用は年々進化しており、日常の授業や教材としてまた、家庭学習において引き続き効果的な活用が図られることを望む。なお、活用にあたってはプライバシー保護や情報セキュリティの順守、児童の使用過多による健康や犯罪被害防止にも十分留意されたい。

## （２）自他を大切にすると共に、自己肯定感の育成

- 教職員ヒアリングや学校公開などの保護者アンケートからは、子どものよさを見付け言葉で伝えたり、子どもの思いに共感し、状況に応じた声かけを行うなど、一人一人のよさを引き出すよう指導を工夫し取り組まれていることがわかる。また、学期ごとに実施されるふれあい月間の児童アンケートでは、一人一人の思いを読み取り個別に支援を実践しており、今年度はさらに、気になる回答があった児童に対する支援策が有効だったのかを検証した上で2回目の話を聞くなど、よりよい支援のためにきめ細やかに対応している。

アンケート調査の「先生や友達に思いを聞いてもらえる」の項目について児童の肯定的回答が高いことや、全国学力・学習状況調査の児童質問用紙調査において、「自分には、よいところがある」に対する肯定的回答が全国平均よりも高く昨年度よりもさらに上昇していることから、学校の取り組みによって子どもが自信を持つことができていることや自己肯定感の向上につながっていると思われ、高く評価できる。

- アンケート調査の「私は、友達との関わり合いや学び合いを通して、成長している」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」における児童の肯定的回答は高く、友達との学び合いを通して、協働的な学びの楽しさを味わいながら自らの成長を実感できているという学校の分析どおり、長年学び合いや学びを振り返る経験を積み重ねてきた経堂小学校の取り組みの成果と考えられ、評価できる。

さらに、「学校生活は楽しい」という肯定的回答が昨年度同様に高水準であることも、児童が充実した学校生活を送っていることを示しており、学び合いの活動が児童の楽しさや学びの質を向上させていることの一つであることが伺える。

- コロナ禍からの回復に伴い、地域との連携による教育活動が再開され、まち探検や農家・スーパーの見学、消防団やグリーンアドベンチャーの授業など、地域の人材や施設を積極的に活用され、保護者・地域との協働が進んでいることは評価できる。

さまざまな職業の方々によるゲストティーチャーの授業は、6年生の保護者にも公開され、キャリア教育への理解を深める良い機会となった。

〈次年度に向けて〉

- すべての子どもの思いに応えることは大変難しいことではあるが、学校からの改善案にあるように、子どもたちがあるがままの自分を認められるような声かけや児童との対話を大切にするとともに、非言語コミュニケーションにも配慮しながら共感し、一人一人の児童に寄り添った教育を継続することを期待したい。
- 多様性を尊重し個々のニーズに応じた適切なサポートと、関係機関や保護者、地域と連携しながら、すべての児童が安心して学校生活を送れる環境づくりに引き続き努めていくことをお願いしたい。

### （３）創造する力の育成

- キャリア教育について、児童の成長に合わせて、低学年・中学年・高学年毎の目標設定によって段階を踏んでより高い目標を設定していること、各学期の「めあてカード」の形式を校内で統一し学年が上がっても同じカードを使用していること、年間を通した取り組みをキャリアパスポートファイルに保存することなどにより、児童自身が自己の目標に向かって取組む意識が向上していることは高く評価できる。数年後に大きな効果となって現れることが期待できる。
- 一方、子どもが目標に向かって諦めずに粘り強く取り組むことについて保護者の肯定的回答が 65.6%と、児童の回答（76.0%）と差があることから、子どもに対して、現状よりさらに努力できることがあると捉えている保護者もいることが伺える。結果ばかりに注視せず、子ども達が目標に向かって取り組む過程を知ることができれば、保護者の肯定的回答の割合も上がってくるのではないかと考える。学校公開など学校の取り組みだけでなく、各家庭で保護者が子ども達の学校での話を聞く時間を少しでも多く確保することなども、子どもの理解に繋がるのではないかと考える。
- 「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」では、児童と保護者の回答に差が見られるとともに、保護者の肯定的回答が低く、「分からない」との回答も多かった。学校の自己評価報告書の改善策に「地域・保護者には公開するだけでなく活動内容によっては協力を仰ぎ、協働していくことでより一層の理解が進むと考える。」とあるマイドリームや職場体験の活動への地域・保護者の協力をさらに仰ぎ、地域・保護者も学校の取り組みに関わりを持つことで、学校のこと、子ども達のことを、より深く理解できるようになると考える。
- 「学習や行事の振り返りをして、次に生かそうとしている」という項目の児童の肯定的回答が、76.8%と高くなっている。学習、学校行事の振り返りを習慣化していることが、効果として表れていると考えられる。振り返りを行うことが、次の取り組みに生かされると実感できる子ども達が増えれば、振り返りがより効果的なものになる。子ども達が、思うようにいかなかったこと

を失敗と捉えるのではなく、次に生かすための経験と捉えられるようになり、そのことが、自信や自己肯定感につながるような取り組みを確立されることを期待する。

○ 学び舎の情報提供に関する回答は児童、保護者ともに肯定的回答は低くなっているが、児童の肯定的回答が昨年よりも高くなったのは、中学生（本校卒業生）との交流や オンライン対話などによるものだと思うので、今後も交流を続けて欲しい。自己評価報告書の改善策として、「今後も各学校と調整しながら充実していけるように進める」とある。他校との連絡・調整は容易ではないと推測されるが、小学生・中学生ともに、良い効果が得られるものと考えられるので、交流できる機会の充実を期待する。

○ 「体育の授業や休み時間に、積極的に運動している」という項目の児童の肯定的回答が60.0%と低くなっている。子ども達にとって運動をする機会は、体育の授業や休み時間ばかりではないと思われる。積極的に運動をする訳ではない子どもが一定数いることが、体力テストの結果（シャトルラン、ソフトボール投げ、握力などが全国・東京都の平均より低い）に関連していると考えられる。

学校の自己評価報告書の改善策にあるように、体育の授業や体育朝会などで、多様な運動に親しむ機会を意図的かつ計画的に設定することは、とても重要と考える。加えて、日常的に、走る、跳ぶ、投げる、登るなどの動きを、遊びをとおして自然に身につけていけると良いと考える。体育の授業や体育朝会で取り組んだことが、子ども達にとっての楽しみとなり、休み時間などに、遊びとして積極的に運動ができるようになると良いと思われる。

一人ひとりが個々に体力向上に取り組むのではなく、友達と一緒に楽しみながら運動ができると、子ども達は積極的に運動に親しむことができ、より効果的な体力向上につながると考えられる。

○ 体力テストの結果の他に教職員ヒアリングなどから、子どもの疲れやすさや怪我などコロナ禍以前の体力に戻っていない状況が伺われ、体力低下の実態とそれが及ぼす健康被害にも留意していくことが必要と考える。

《次年度に向けて》

○ キャリア教育について、児童に対して浸透しつつあり、自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動出来るように今後も期待したい。なお、保護者の理解が追い付いていない状況がみられるため、保護者会等の行事で粘り強く伝えて欲しい。

○ 「探究的な学び」として行う「振り返り」「学び合い」については児童の非認知能力の育成にも有用であり、引き続き充実して欲しい。特に振り返りは自分の弱み強みも受け止めて次の活動へ生かし 自己肯定感を高めることができるので、様々な場面を通して継続して欲しい。

- コロナ禍に起因する子どもの体力低下傾向の回復を目指し、学校での運動機会の確保充実を図るとともに、栄養や睡眠や疾病予防などを知識習得する健康教育にも努められたい。

### 3 その他の学校運営に関わる事項について

今年度の学校自己評価は、学校経営方針が3つの重点目標（児童に身につけさせたい能力の育成）を中心とした体系整理が行われたため、3つの重点目標にターゲットを絞った内容となり、それに伴い学校関係者評価も整合性を保った項目立てとしたところである。学校運営の究極の目標は学びの場として児童に生きる力を育てることであり、これを重点に据えて学校経営を行うことは当然のことである。従って目標を明確化することのメリットは大きいと考える。

一方で学校の組織運営や教職員の働き方、保護者や地域との連携による開かれた学校運営、学校生活での安全確保など内部要因や外的要因も含めた学校評価が見えづらくなることも感じたところである。そのため以下に重点目標以外の学校運営に関わる重要事項について補足する。

#### （１）組織運営、教職員の働き方

教職員の人材難や若手職員の増加に伴う人材育成が全国的にも課題となっている中で、本校においては学年ごとのヘルプ体制、教科担任制、教職員同士の良好なコミュニケーション関係、臨時的な任用教員等の的確な確保などにより組織的な協力体制の下で一体的に学校運営が進められていると感じた。

また、教職員の多忙化が問題となる中で会議の短縮や時程の工夫などにより、教職員の事務負担軽減や職員の休憩時間確保が図られるなど労働環境の改善も進みつつあると感じた。働き方改革の目的は教職員が児童や保護者と向き合う時間を生み出すことでもあり、引き続き教職員が心身の健康を保ちながら能力発揮ができる環境整備に努めていただきたい。

#### （２）学校行事（運動会）

昨年度コロナ禍明けによる短縮時間でのスマートな運動会実施に関して、保護者から従来型を望む多くの声があったところである。今年度は児童の体力低下も考慮し引き続き午前中での実施となったが、全員参加競技を導入したり、事前に運動会を通して児童に学んでもらいたい事は何かを周知するなど努力された結果、スマートな運動会を好意的に受け止める保護者が昨年度より増加した感があった。一方、もっと種目の数を増やしてほしい、順位や勝敗のある種目を取り入れてほしい、といった声も複数あったことも事実である。また、高学年が運営のお手伝いをする姿を称賛する声も多く、児童が自分が役立っているという実感を抱く大変良い機会となっていると感じた。来年度の実施に向けては、本校の運動会における教育目的をしっかりと持ちつつ検討を進め、保護者や地域へ丁寧に説明しながら取り組んでいただきたい。

#### （３）保護者および地域との連携

公開授業が定期的に行われるようになり、日々の学校での授業や児童の様子が見えることは好ましいことである。保護者からの参観アンケートでも、教職員の丁寧な指導や児童の成長ぶりへの感謝の声も多いところであり、引き続き開かれた学校づくりを目指して保護者への公開や情報発信の機会の充実に努めていただきたい。

地域との連携において、今年度も地域コーディネーターの尽力で「マイドリーム」授業として、社会で活躍される多くの保護者や地域の方々が登壇し児童へ教授いただいたことは大変有意義な取組であったと考える。これを公開授業として保護者に発信されたことも、共に児童の未来をデザインするための一助となると考え、今後の取組にも期待したい。

## おわりに

学校経営方針の重点目標について、学校では教職員が目標を共有し日常の教育で意識した活動が行われおり、教職員の人事異動による影響もなく、組織的に継承され引き続き浸透していると感じた。特に校内研究で培ってきた「学び合いと振り返りの充実」を目的とした授業改善が校内全体でさらに定着し子どもの成長につながっていることが見られる。子どもたちの主体的な学びによる自分づくりがさらに進むことを期待したい。

児童、保護者、地域のアンケート調査は、保護者アンケートの回収率が特段に向上し、今後にも生かせるデータが揃った感がある。引き続き学校理解への好機と捉え回収率の維持向上に努めていただきたい。回答内容は概ね肯定的評価が高く、これを踏まえた学校の自己評価や改善策は妥当なものとする。なお、アンケート回収率の向上による影響もあると考えられるが、昨年度と比して肯定的評価が微減となっている項目が複数あることから、今後の変化に留意していただきたい。

学校を取り巻く環境は、肥大化する学校教育への期待と業務量、教職員の不足など厳しい状況にある。未来を担う子どもたちを最前線で守り育てる学校を、保護者や地域とともに創りだしていくことが求められており、学校の内部努力とともにその連携協力をさらに強固なものとしていくことで地域運営学校がさらに発展することを期待する。

### <学校関係者評価委員会の活動記録>

	月 日	内 容
第1回	令和6年5月11日	学校経営方針の説明、年間予定
第2回	令和6年6月8日	アンケート独自項目の検討
第3回	令和6年7月6日	アンケート独自項目の検討
第4回	令和6年9月28日	教職員ヒアリングの内容及び日程調整
	令和6年11月20日	教職員ヒアリング
第5回	令和6年12月14日	学校長ヒアリング、アンケート集計結果の説明・協議
第6回	令和6年12月19日	学校自己評価報告書の説明、報告書作成協議
第7回	令和7年1月18日	評価報告書の協議、まとめ
	令和7年2月8日	評価報告書の説明予定（教職員等向け）

### <学校関係者評価委員名簿>

武田 邦信

七五三野 裕紀

渡邊 磨子

石井 友希子

當麻 百枝

高橋 和人